

学習内容報告書 フォーマット

学校名	千葉県立大原高等学校
授業者	川嶋 光・猪野 尚文・朝川 大・秋羽 教弘・川西 達也・宮内 陽子・白久 沙華

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

イサキ親魚漁獲実習・種苗生産・放流・小学生水産教室

1-2. 学年

3年次生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

教科「水産」 科目「総合実習」

1-4. 単元の概要

地域水産業関係者（遊漁船）と本校海洋科学系列は日頃から協力し合っている。今回は、種苗生産に用いるイサキ親魚を地域水産業者（遊漁船チャーター）と協力して釣り上げる。そのイサキを活魚輸送トラックにて実習場まで運搬する。最終的にはこのイサキから種苗生産・中間育成を行い、親魚を漁獲した海域に放流する。

高校生自らが漁獲し飼育・種苗生産したイサキ稚魚を用いて、近隣小学校の5・6年生を招待し、小学生水産教室を実施した。栽培漁業実習場で飼育する魚の説明や稚魚の取り上げ、体験乗船や放流体験・試食等、海の魅力を生徒自ら小学生に伝えた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

生徒には地域産業の理解や、漁獲の実際を体験させる。また、遺伝的多様性のための親魚の確保についても触れる。栽培漁業の一連の業務を通して、持続可能な水産業の確立に向けた各業種の取組みについて理解し、ひいてはSDG sの取組の当事者として意識させたい。

小学生に自分自身の学びや経験を伝えることで、自己肯定感の醸成などをねらう。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

地域産業の理解と漁獲の体験を通して海の魅力を体験する。種苗生産や中間育成から生き物を育てる大変さや命の尊さ倫理観をはぐくむ。多くの大人達との交流を通じたキャリア学習の面も持たせる。小学生に自分自身の学びや経験を伝えることで、自己肯定感の醸成などをねらう。

1-7. 単元の展開（全20時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
6	<p>地域水産業関係者の船に乗船し、イサキ親魚を漁獲する。</p> <p>漁獲の方法を学び、1人ひとりが実釣する。</p> <p>雌雄判別、活魚輸送を行い種苗生産の準備を行う。</p>	<p>地域水産業関係者（釣り船）の担当者よりイサキ親魚の漁獲方法について船上にてレクチャーを受ける。</p> <p>教師及び同乗した関係者は生徒の補助を行いながら、単元目標の達成に努める。</p>
2	<p>イサキ種苗生産について学び、基礎的な知識を身に付けながら、イサキ種苗を生産する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採卵と種苗生産 ・初期餌料 ・中間育成 ・飼育魚管理 	<p>栽培漁業実習上での実習として、種苗生産や中間育成について解説する。</p> <p>飼育業務の実際をまなび、実習上での飼育のありかたを体験的に学ばせる。</p>
4	<p>イサキ稚魚放流を行う。漁獲したイサキを親として生産した稚魚を漁獲した海域に放流し、栽培漁業の一連を完結する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池上げ、出荷作業 ・活魚輸送車への積み込み ・乗船しての放流 	<p>地域水産事業者と連携し、栽培漁業実習上からイサキを出荷し、大型活魚輸送車に積み込ませる。</p> <p>漁船乗船・放流時の安全確保を行う。</p>
8	<p>（4単位時間ずつ2回実施）</p> <p>近隣小学生を実習場に招待し、高校生による栽培漁業実習場の説明、イサキの解説、本校実習船への体験乗船、沖合でのイサキ放流、イサキのから揚げ試食を行う。</p>	<p>勝浦市の2つの小学校に参加していただいた。</p> <p>小学校教諭との事前打ち合わせ</p> <p>教師は事前に生徒の役割分担をし、各分担の準備を指導する。当日は小学生・高校生の安全管理等の最終チェックを行う。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・地域産業「遊漁船」の運行について、体験的に学ぶ。
- ・イサキの漁獲を体験し、そのイサキの特徴について学ぶ。
- ・イサキの雌雄判断について学ぶ。
- ・イサキの活魚輸送を行い、種苗生産用の親魚として活用する準備をする。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>目標 1： 遊漁船運営について、離岸出港・接客・航行・釣り補助・入港・片付け等、実際の様子を見ながら学ぶ。</p> <p>目標 2： イサキの漁獲方法（カモシ釣）について船員よりレクチャーを受け、漁獲の実際について学ぶ。沖合にて、一人ひとりが竿を持ち、漁獲に臨む。魚とのやり取りを通して、漁獲の喜び、命のやりとりを学ぶ。</p>	<p>集合挨拶指導・関係者紹介・今日のねらいの解説。</p> <p>遊漁船担当者による解説 実釣による道具を用いながら、漁獲方法について学ぶ様子を観察・補助する。</p> <p>漁場到着後、船長の指示での漁獲（実釣）開始の後、生徒の補助を行う。</p>
	

目標3： 漁獲後の処理として、清海水にて保護し釣りによるダメージをやわらげ、イサキが落ち着いてきたら腹部圧迫による雌雄判断を行う。優良親個体となりそうなものについて、船の大型水槽に搬入し、船上活魚輸送する。



目標4： 入港後、選別された親個体を丁寧にトラック水槽に移し、実習場まで活魚輸送を行う。



目標5： 親として使用しない個体について、水産食品として、おいしさを味わう。

雌雄判別について、釣り座近くの数人グループに、実演しながら解説する。

優良個体を大型水槽に搬入する。

漁獲後の片付けについて補助し、船内移動時の安全を確保する。

入港接岸後、船内片付けとともにトラックでの活魚輸送について準備する（トラック水槽・酸素供給等）

優良個体を漁業者と判別後、生徒のバケツリレー方式でトラック水槽に搬入する。

死亡個体・不要個体については生徒に配布し、持ち帰らせる。

3. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

3-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

3-2. 本時の目標

地域小学生との交流事業として、地域水産業について理解してもらう。
普段学んでいることを、自分たちの言葉で伝える。
若年者の安全管理について学ぶ。

3-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>※それぞれの担当を分担して行う</p> <p>1. 栽培漁業実習場の飼育生物やイサキ等について説明する。</p>  <p>2. 今年度種苗生産し、小学生が放流するイサキ稚魚を小学生に取り上げさせる。</p> 	<p>教員も担当役割を決めて状況を確認し、観察法で評価する。</p> <p>補足説明や小学生の誘導などを生徒と一緒にやる。</p> <p>イサキの取り扱いや運搬時の転倒に注意させる。</p>

3. 体験乗船を行う。乗下船の補助を行う。航行中の安全を管理する。



4. 沖合にて小学生に放流させる。イサキの受け渡し等を補助する。



5. イサキを調理し、小学生に試食させる。



港則法適用内では教員が操船する。小学生の乗船状況など、最終的な確認を行う。

落水や放流尾数の均等化に気を配る。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に関して基本的な事項を徹底させる。

4. 今回の活動の自己評価

この活動は、本校海洋科学系列の地域との協働や地域交流といった部分の主要な活動である。

一昨年、昨年同様に地域水産業関係者との協働、種苗放流による遺伝子の多様性の保護、種苗生産後の稚魚を放流することによるSDGsの学び等総合的に生徒の成長を見ることができた。ひいては、過疎化の進行が激しい地方集落に、産業や生産性を生み出すことに繋がることになるだろう。地域への貢献度も増してきている。本校生徒にも浸透し、生徒全員が楽しみにしている実習となってきた。

新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなってきており、今年度は小学生水産教室も実施できた。小学生への指導などを通じた自己肯定感の向上も感じられた。今後も様々な分野との交流を目指していきたい。

5. 今後の課題

3年前からパイオニアスクールプログラムを活用して、本実習を開始した。地域や中学生にも浸透し、海洋科学系列を代表する実習となってきた。今後はパイオニアスクールプログラムからは外れるが、地域関係団体等と協力体制を継続し、発展させていきたい。

6. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。